



わかばやし しづこ
若林 志津子
(日本共産党議員団)

コロナ禍での女性や子どもへの貧困対策

問 生理の貧困をなくすために、生理用ナプキンの配布場所の拡大を。現在、社会福祉協議会で配布しているが、市役所でも配布し、受け取る人が受け取りやすい取組が必要と考える。

部長 生理用品配布の問い合わせは、市と社会福祉協議会にいまのところない。女性が健全な社会生活を送るために、生理用品は必要不可欠なもの。生理の貧困は、生活困窮に対する支援、女性への支援として市が取り組む必要がある。市役所内での配布について検討していく。

問 学校現場で児童生徒が受け取りやすい方法や、そのための改善は。

教育長 生理用ナプキンは、各学校の保健室で管理している。養護教諭が女子児童生徒の生活必需品の不足状態を確認しやすい環境であり、

現段階では、この方法が一番自然に受け取る事ができるやり方である。今後も学校には、養護教諭を中心に児童生徒の家庭状況を注意深く把握し、受け取りやすい環境を整えていくようにお願いしていく。

要望 学校トイレの手洗い場や個室に置いて、誰でも気軽に使用できるようにして欲しい。

小中学校での性教育の取組の考え方

問 性教育はプライベートゾーンや性暴力への対処だけではなく「からだは人権そのもの」との考え方で取り組むべきと考える。

教育長 各学校では、取り扱う内容や単元、発達段階や実態に応じて、単に性に関する知識を得るだけでなく、性に関して気持ちをコントロールしたり、相手も自分も大切にし、自分らしく生きることを ×
考えたりすることで、人権教育を意識した指導に取り組んでいる。



ほそがわ さとる
細沢 覚
(育成)

市内コロナウイルスワクチン接種進捗と改善策について

問 12歳から15歳まで及び高校3年生の進捗状況と、同伴接種はできないか。

部長 中学生の集団接種は、夏休み中の7月、8月に1回目を4日間、2回目を8月中に2日間と9月の連休に2日間実施。対象者約3700人に対し、1回目2107人、2回目2071人が接種している。高校3年生については、8月に1回目を3日間、2回目を9月に3日間集団接種の会場で実施し、対象者約1300人に対して、1回目1041人、2回目998人が接種している。同伴者も一緒に接種すれば効率という考えは理解できるが、緊急時への対応や帰宅後に副反応が起こった場合、保護者も同様に副反応を起こす可能性もあり、安全面を考慮す

ると同時接種は好ましくないと考えている。

問 今後交差接種または、接種後8か月を過ぎた市民の接種の考えについて。

部長 国が示す基準に従って実施していく。追加接種については、早ければ令和4年1月以降にも追加接種が始まることから、それに向けて体制を整えていく。

今後、富士宮市を活性化させる考えについて

問 市内の中小企業、飲食店及び旅館等の現状について。

部長 第5波の猛威を受け、まん延防止等重点措置の対象地区に指定、緊急事態宣言が発出される事態となり、休業や県境をまたぐ不要不急の外出や移動自粛の要請により非常に厳しい状況である。市では補正予算可決後、市内宿泊事業を支援するため、感染対策をしている宿泊事業者に対し最大30万円の給付金を支給する。

